

東京電力福島第一原発事故から9年の3・11 原発再稼働NO! アオーレ前で 市民によびかけ



福島原発事故以来毎年3月に開催してきた「市民のつどい」。今年は新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となる中、「その分3・11街頭宣伝行動を例年以上に盛大に行おう」と、急遽横断幕を新調し、ハンドマイク宣伝とスタンディング、ゼロネットニュース配布などで市民のみならず、さんに元気にアピールしました。

☆☆☆☆☆☆☆☆
4月11日(土)は12時アオーレ前にあなたもご参加を!

福島原発避難者訴訟 「正義が通った」と原告 仙台高裁 ふるさと喪失損害を認定

原発事故で避難指示を受けた住民らが東電に賠償を求めた訴訟の控訴審で仙台高裁は3月12日、東電の責任を断罪する判決を下しました。判決は古里喪失・変容の慰謝料を明確に認め、一審・福島地裁いわき支部判決を約1億5千万円増額した賠償支払いを東電に命じました。小林裁判長は、「東電は津波による電源喪

失の可能性を認識していたのに具体的な対策工事を実施していなかった。被害者の立場から見れば誠に痛恨の極みと言わざるを得ない」と述べました。早川篤雄原告団長は「感激し震える思いで判決を聞いていました。人間の良識を信じて訴えてきたことが報われました」と目を潤ませました。

“東電は判決を実行せよ”

判決を真摯に受け止め支払い命令を速やかに実行に移すことが東電に求められています。しかし東電は、216人の原告に計約7億3400万円の支払いを命じた仙台高裁判決を不服として3月26日に最高裁に上訴しています。その一方で日本原電東海第2原発再稼働のために2200億円の資金援助を決めています。

柏崎・刈羽原発をめぐる動き 急

「再稼働許すな！」の声を今こそ大きく

◆東京電力柏崎刈羽原発の使用済み核燃料に柏崎市が課す「使用済み核燃料税」の経年累進課税化の導入について、市と東電が合意。桜井雅浩市長は、制度の実現を6・7号機の再稼働の前提条件とする意向を表明しています。桜井市長は、十一月の柏崎市長選前の十月条例施行を目指しており、3月31日に臨時市議会にて提案理由を説明し、東電からの意見聴取などを経て、4月21日に採決する予定です。

◆東電は、使用済み核燃料の一部を2020年度に号機間輸送する計画を発表。輸送後の貯蔵率は6号機のプールが93%から92%に、7号機は97%から82%に減少し、空き容量は6号機が1サイクル分、7号機は2サイクル分確保できるとしています。

“Fukushima50” 観てきました!

ゼロネットニュース97号(2/3 発行)の原発映画のお知らせに誘われて“Fukushima 50”を観てきました。

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災発生。そして福島第一原発事故!

東日本壊滅の危機が迫る中、死を覚悟して発電所内に残った職員たちは、家族・ふる里を守るためにいかに戦い続けたかが感動的に描かれていた。

想像を超える被害をもたらした原発事故の現場で何が起きていたのか?何が真実なのか?が浮き彫りになる。迫力のある映像から、原発が人間の手に負えないものであることが伝わる。

「オレ達はどこで間違ったのか?」と自問する1Fのリーダーの2つの言葉が心に残った。

「自然の力をあなどった」こと。
「人間として驕りがあった」こと。(N記)